

菰野町の秋の風物詩

僧兵まつり

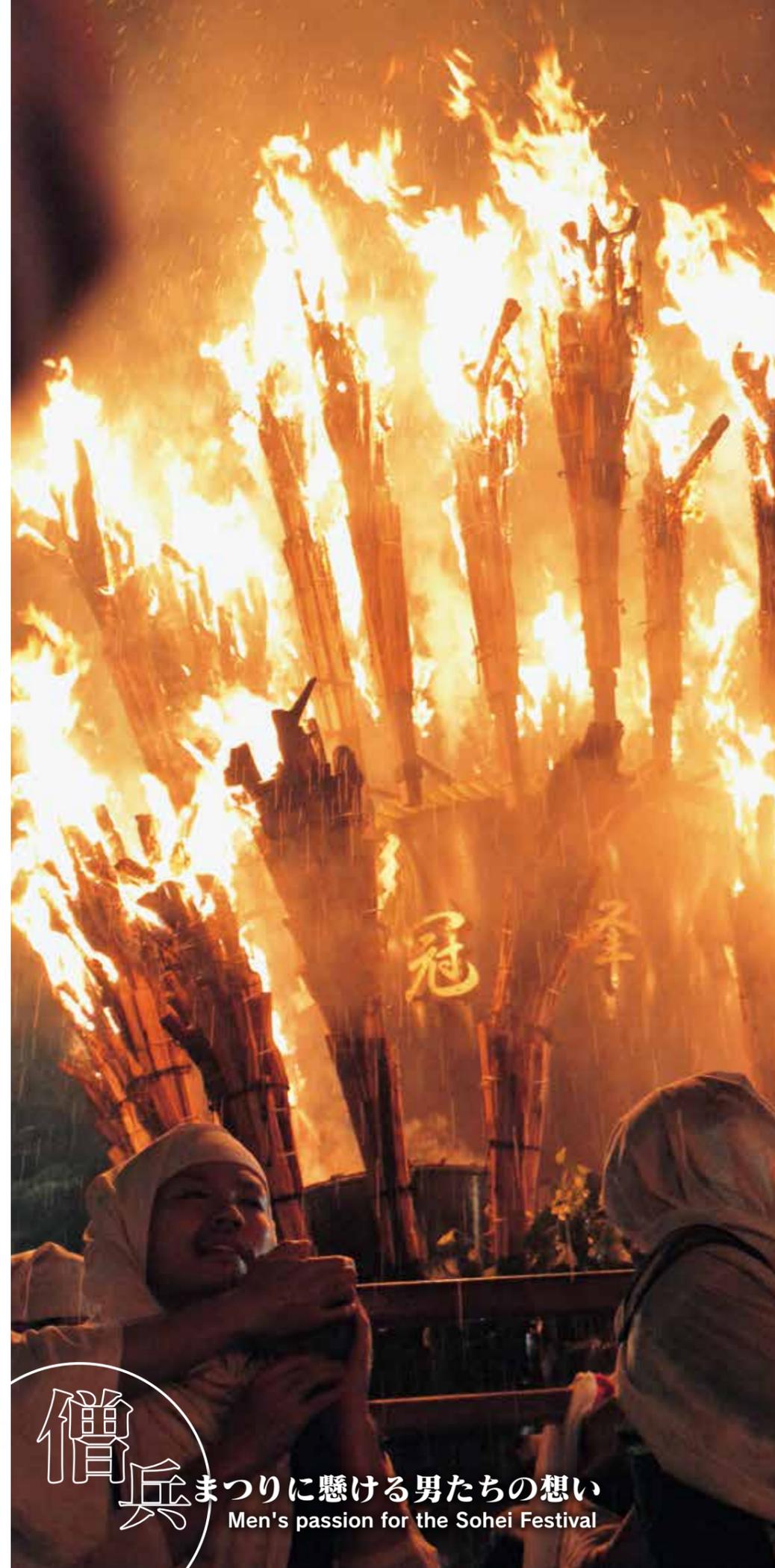
今年で開催50回目を

迎えたこの祭りに臨む

僧兵たちの姿

そして携わってきた人々の

想いに迫ります



冠峰山三嶽寺と僧兵たち

湯の山温泉にある冠峰山三嶽寺は、天台宗をおこした僧、最澄（伝教大師）が全国に開いた山岳宗教の拠点のひとつです。武家政治の時代には当時の政権の横暴に対し、天台宗の僧たちも武装して三嶽寺を守り、約760年もの間、守り続けました。特に永禄11年（1568）から始まった織田信長の伊勢侵攻に対して、天台宗の僧兵約300人が戦ったといわれています。しかし、北勢地方の天台系に属する寺院はこのとき、ことごとく焼き滅ぼされ、三嶽寺も兵火に焼き討ちされ滅亡しました。現在の冠峰山三嶽寺は、その後、再興されたものです。

僧兵まつりは、勇敢に戦ったかつての僧兵たちの姿を明治の初め頃から祭りとして再現したもので、温泉を発見した浄薫和尚の供養とともに毎年、盛大に開催されています。



3

1子どもたちに餅を振る舞う僧兵もちつき山車
2御在所ロープウェイ会場に集った大勢の僧兵たち
3昭和40年代、祭りの最終日に行われていた火炎みこし



1

2

僧兵まつりのこれまで

現

在では、秋を迎える上で菰野町には欠かせない祭りとなつている僧兵まつり。その前身は湯の山温泉の湯元祭りでした。各旅館、御在所ロープウェイなどの関係者は湯元祭りに湯の山温泉街全体をにぎわせるため祭りの目玉が必要と考え、実行委員会を組織し、焼き討ちされた三嶽寺と僧兵たちの姿をもとにして「火」をテーマにした「僧兵まつり」を企画しました。僧兵まつり開始当初は現在のような火炎みこしはなく、わらを燃やすなどして兵火を表現していましたが、その数年後、木製の樽に松明を取り付けた火炎

祭りの声

地元を盛り上げるために

火炎みこしの参考とするため京都の「鞍馬の火祭」などを視察しに行ったことを覚えています。資金集めなど開始当初は苦労の連続でしたが、湯の山全体で協力しながら、地元を盛り上げたい一心で取り組んでいました。

深流の宿 蔵之助
僧兵まつり 初代実行委員長
やだまきのり
矢田正則さん



みこしを祭りの中核に据えるようになりました。

毎年10月8日から3日間、僧兵まつりが開催されていた昭和年代には湯の山区の子どもや旅館で働く芸者だけで担ぐ子どもみこしや芸妓みこし、それぞれの旅館前で僧兵たちがつきたての餅を振る舞う僧兵もちつき山車なども行われていました。そして近年では、10月の第一週の週末に1日間で開催されるようになり、祭り一番の見どころである重さ約600kg、100本ほどの松明が燃える勇壮な火炎みこしの姿は変わっていません。炎を扱い、危険が伴う祭りではありますが、これまで一度も大きな事故はなく、毎年催行されています。

僧兵

まつりに懸ける男たちの想い
Men's passion for the Sohei Festival

祭りの声

不動明王の炎を灯す

僧兵たちが担ぐ火炎みこしの炎には冠峰山三嶽寺の本尊、不動明王の炎が表されています。不動明王の力を借りて、事故なく御在所ロープウェイ会場まで辿り着けるよう祈念し、三嶽寺から送り出しています。



冠峰山三嶽寺
住職
しばけんたく
斯波賢徳さん